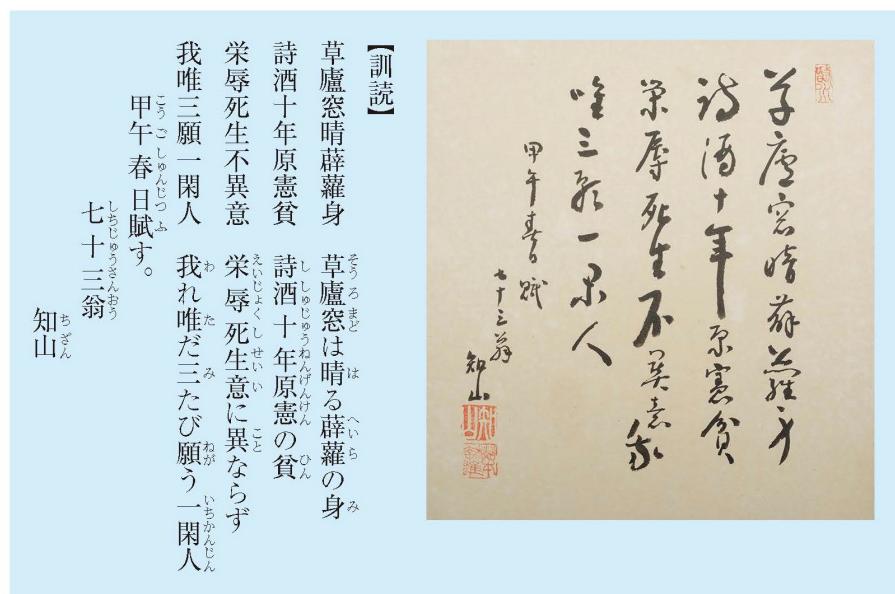


杉本幸雄 財団法人興風会初代主事・海軍大佐

初代主事の杉本幸雄(1881~1970)は、これまでに人物像や人柄は今日までにはとんど知られていませんでした。しかし、今回『公益財団法人興風会九十年史』の編さん作業を進める中で、杉本主事に関する詳細な資料を確認することができ、『公益財団法人興風会九十年史』のコラム(P176~P178)で詳しく掲載することができました。また、関係各位のご協力により資料の調査、解説等がさらに進み、杉本幸雄初代主事の心境を知る上でも、大変貴重な資料であることが分かりました。

杉本幸雄色紙①



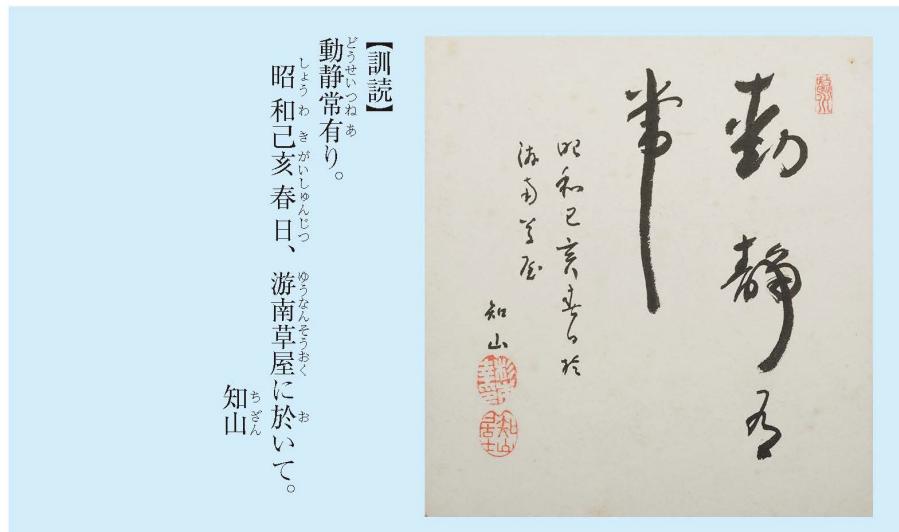
ひとつは、1954(昭和29)年、主事が73歳時の心境を漢詩に詠んだ色紙です。2019(令和元)年6月、偶然にもインターネットオークションで入手したものです。当会保存文書『昭和8年度日誌』によれば、杉本主事は1933(昭和8)年8月31日、約200人が見送る中、4年間過ごした野田の町を家族とともに離れ、以降、1970(昭和45)年に亡くなるまで自身の考え方や思いを語った資料は皆無でした。本資料は、直筆かつ自身の思いや日々の暮らしがわかる貴重な資料と言えます。

[現代語訳]

すでに隠居した身で、日々草庵の窓より晴れた空を眺めて暮らしている。こうして、かの原憲のごとき清貧に甘んじ、詩と酒の生活を送ってもう十年になる。とはいえ、いまの自分に対する榮辱やこの先の生死について異論があるわけではない。ただ再三願うのは、悠然と日々を送る人でありたいというだけだ。

甲午の歳の春日に詩を詠む。七十三翁 知山

杉本幸雄色紙②



もう一点は、1959(昭和34)年に揮毫された色紙です。この言葉の出典は『易經』繫辭上伝にあり、78歳時的心境を垣間見ることができます。

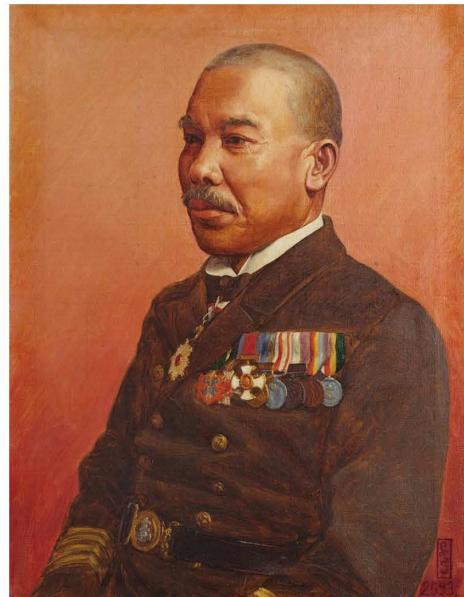
[現代語訳]

天地間のあらゆる事象には、陽なるものは常に動にはたらき、陰なるものは常に静にはたらくといった具合に、必ず一定の規則が備わっている。

昭和己亥の春日、游南草屋にて書した。 知山

杉本主事肖像画

肖像画は杉本主事が本会を退職するにあたり、その業績を称え、町の有志から興風会に寄付されたものです。作者は不詳ですが、サインと共に記された制作年から1933(昭和8)年と思われます。



[参考資料] 『野田文化の芽ばえ～明治から昭和中期の社会教育史』野田市郷土博物館・1999年10月2日発行／『レファレンス共同データベース』名古屋市鶴舞中央図書館・2009年1月15日登録日時／[協力] 野田市郷土博物館

※本文中4P、5P、12P、13Pの漢詩文の解説、訓読、現代語訳は世田谷区史編さん委員会近世専門部会調査員の重野宏一氏によるものです。